



くすりと健康

一般社団法人
神戸市薬剤師会

関節リウマチ

関節リウマチは、免疫システムの異常によって起こる自己免疫疾患です。免疫とは、体内に侵入してくるウイルスや細菌などを攻撃し退治するとても大切な機能です。その免疫機能が何らかの原因で異常を起し、自分自身を攻撃して細胞を破壊してしまう病気を自己免疫疾患といい、このうち関節の細胞を攻撃する病気が関節リウマチです。

関節リウマチの症状は、初めのうちは朝起きた時に手足がこわばり、動かしくくなりやすくなります。この症状が起こっている時間は色々で、長くなるほど関節リウマチの状態が悪いと考えられます。症状が進むと、手足の指関節に痛みを感じるようになります。次第に手首や肘、膝など体の中心に近い大きな関節に痛みが広がっていきます。さらに症状が進むと、関節が変形して指が曲がったり

動かしくなくなったりし、最終的に関節が破壊され、骨と骨が直接くっついた状態になり、動かすことができなくなりますが、関節の細胞もなくなるため痛みを感じなくなります。免疫機能の異常がなぜ起こるのかわかっていないため、関節リウマチを完治させる薬は今のところなく、痛みや炎症を和らげる対症療法、異常な免疫を抑え関節の変形や破壊を遅らせる効果のある抗リウマチ薬などで治療していきます。

抗リウマチ薬ではメトトレキサートが広く使われており、骨髄抑制や間質性肺炎という重い副作用発生のリスクを抑えるため、1週間に2回または3回の決まった時間にだけ服用し、毎日服用しません。そのほかにも何種類か抗リウマチ薬がありますが、最近使われるようになってきたのがバイオテクノロジーを利用した生物学的製剤で、関節破壊を抑制する効果が強い薬です。この薬は、よく効くので完治まではいかな

くても、日常生活を不自由なくおくることができるまでに回復することもあります。しかし、免疫を抑制する作用があるため、重い感染症などのリスクが高まることや比較的高価であることが欠点です。

対症療法は、非ステロイド系抗炎症薬やステロイド薬が多く使われています。どちらも医師の指示通り服用すれば、副作用の心配をあまりすることはありませんが、非ステロイド系抗炎症薬では胃潰瘍などの、ステロイド薬では骨粗鬆症などの副作用が知られており、それらを予防するための薬を服用することもあります。

関節リウマチは、早期に適切な治療を受ければ、進行を遅らせたり、完治に近い状態で過ごすことができたりします。朝のこわばりが続くなど気になる症状があったら、医療機関を受診することをお勧めします。

(北区 薬局エヒラファーマシー

松本 博志)